

つなぐ



団体応援講座「市民活動とAI ～こうすれば活動に活かせる！」

講師：NPO法人まつどNPO協議会 理事 齋藤 和輝さん
2月28日（土）14時～16時 市庁舎協働会議室

団体の活動に直接役立つ内容をテーマに開催している「団体応援講座」今回は、すっかり身近な存在となった「AI」を市民活動にも活用し、業務の効率化や運営のヒントにつなげてもらうことをテーマに取り上げました。「どうやって使うの?」「市民活動でも役立つ?」といった関心も高く、定員を超える31名の皆さんにご参加いただきました。



講座は、「便利なAI（生成AI）ですが利用するには注意が必要ですよ」と注意点からスタートしました。

●「AIの答えは“正しい”とは限らない」

生成AIの出す情報は、あくまで過去のデータから予測した“もっともらしい文章”です。

本当の正解とは限りません。特に「健康／病気」「法律」「お金」関連の情報は注意しましょう。

AIは人のように考えたり感じたりしているわけではありません。この言葉の次はこれが来たら自然な文章になる」と統計的に予測した結果を表示しているだけです

●「個人情報や機密情報を入力しない」

AIに入力した内容は、サービス提供者のサーバーに送られます。

個人情報は不用意に入れないようにしましょう。

●「AIが作った文章や画像の“責任”は使う人にある」

AIが出力した内容を使って発信する場合、誤った情報や他人の著作物を無断使用してしまうリスクがあります。

参加者は大きくうなずきながら真剣な面持ちで話を聞いていました。「データがどこかに送られるとは考えたことがなかった、教えてもらえて良かった」との声が参加者から聞かれました。

続いて、講師によるChatGPTのデモンストレーションを通して、市民活動での活用例を見ていきました。

イベントのタイトルやキャッチコピーを考える時、考え込んだまま時間が過ぎていく…誰もが経験したことがあるかと思います。こんな場面を想定して、AIに質問を投げかけると即座にいくつものアイデアを提供してくれました。それをヒントに、いくつかを組み合わせたり、一部分を変えたりし、自分たちにじっくりくる内容にブラッシュアップしていきます。



このAIへの質問について講師は次のように話されました。

「ChatGPTをはじめ多くのAIは言葉で指示を出して操作します。この指示の文章のことを『プロンプト』と呼びます。プロンプトの内容や書き方次第でAIが出力する結果は変わります。良いプロンプトの原則は『できるだけ具体的かつ明確な指示をする』ことです」

この後、講師が自分の写真を使ってチラシを作っていく過程が実演されました。最初にできたチラシに「背景に桜を入れて、写真を中央に持ってきてなどプロンプトを追加していくとそれが反映されていきます。完成したチラシは中央で若い男性がほほ笑む選挙ポスターのように。参加者は笑いながら、AIが表現を調整していく様子を興味深く見守っていました。

上手に付き合うと団体の抱える問題解決の一助になってくれるAI。ただ、最終的には私たちの考える、判断するという作業がより重要になることも認識させられました。





知ることによって浦安を好きになる。このまちの物語

■ 私たちの住むまちに受け継がれる アイデンティティ

普段、何気なく歩いているまちにも、実は知られざる背景と想いがあります。新浦安駅近くの入船歩道橋にある大きな木のレリーフをご存知ですか。彫刻家、鈴木丘氏の作品で、傍の銘板には「Old Tree is in New Town」と記されています。初期段階から埋立後の開発計画に携った学識経験者のひとり、磯村英一氏が幾度となく口にした言葉で、浦安の開発に対する「新しいまちに、古い木を」という想いが込められています。モチーフとなっているのは豊受神社の大銀杏。干潟を埋め立てて生まれた新浦安は、かつてはヨシが生え、鳥が集まる自然豊かな場所でした。その歴史を大切にしながら未来をつくらうという考え方が、このレリーフに表現されています。駅前広場から抜ける広い空、海へとつながるシンボルロード、水路や緑の配置、点在するモニュメントなどは、開発計画時に「みどり」「あかり」「みず」「れきし」というテーマでデザインされたもの。私たちが日々感じている新浦安の開放感や心地よさは、こうした想いや工夫の積み重ねによって生まれています。



■ まちづくりの想いをつなぐ

こうしたまちづくりに関わってきた一人が、地域政策プランナーの中山高樹さんです。中山さんは昭和56年に浦安市役所に入庁して新浦安駅前の開発に携わり、定年退職後は地元浦安市を中心に、まちを元気にするための活動をしています。うらやす市民大学の立ち上げやまちづくり講座などを通じて、浦安の歩みを伝えてきました。

中山さんは「まちづくりは10年、20年経って初めて評価されるもの」と話します。一方で、その過程が記録として残されなければ、込められた思いや背景は

伝わらなくなってしまいます。実際に市史編纂が途切れた時期もあり、「残さなければ、なかったことになってしまう」という危機感を抱いてきました。そこで現在は、開発の経緯や当時の考え方を語り継ぎ、次の世代へとつなぐ活動に力を入れています。

■ これからの新浦安を育てるために

新浦安は誕生から約50年、これからは「つくる」から「育てる」という成熟の段階へと進んでいきます。一方で、老朽化したモニュメントや水路などの維持管理といった課題も見えてきています。時間の経過とともに、当時を知らない世代にとっては「ただ古いもの」と感じられてしまうこともあります。背景にあるストーリーを知ることによってその価値の感じ方が変わります。

中山さんは「まちをよくするためには、まちへの愛着、誇りが必要。そのためには“知る”ことが大切である」と考え、まち歩き案内人を引き受けてくださいました。説明を聞きながら、想いを語りながら歩くことで、見慣れた風景は単なる日常から“意味のあるもの”や“伝え残したいもの”へと変わります。市民一人ひとりがこのまちの生まれた背景や、歴史を学ぶことで、これからの浦安をよりよくしていく力になります。まずは身近な場所から、新浦安の物語に触れてみませんか。



浦安に住んで10年以上になりますが、「Old Tree is in New Town」というレリーフの存在を知りませんでした。中山さんのお話を伺った翌朝、シンボルロードを自転車で駆け抜けて現地へ。漁師町として育んできた伝統的な文化と、埋立地に築かれた海浜都市としての思想、その新・旧の調和という願いを知ったからこそ、その大樹のレリーフが、浦安で流れてきたこれまでの時間や想いを静かに語りかけてくるように感じられました。

(市民ライター 西橋友理)

シンボルロード 入船～美浜



美浜交差点を起点とし
海へと続くシンボルロード
ゆったりとした通りには
モニュメントやオブジェが点在し、
みどりあふれる空間は私たちに心地よさを
与えてくれます

シンボルロードは、もともと埋立用の資材を運搬するための工事用道路だったとか。1985年から1993年にかけて美浜交差点から明海交差点までの約900mの間、埋立地に自然を育成することを目的として整備されました。（都市計画道路3・1・3号 浦安橋明海線）

当初はせせらぎ空間があり、夏ともなれば子どもたちが水遊びに興じる光景をよく見かけました。しかし、漏水、東日本大震災の液状化被害の影響で、残念ながら今は水が流れない水路になっています。とはいえ、豊かなみどりは、いつも人々の目を和ませ、暑い夏には木陰が散歩途中の人たちを癒やしてくれます。

いつも通る人にとって、レリーフや数々のモニュメントは強く印象に残らないかもしれませんが、その由来を知るとさらに関心が深まります。今号の特集では、まちにふれ、浦安をもっと好きになっていただきたい、そんな思いから企画しました。

まちづくり講座



浦安をもっと好きになる！ vol. 2

新浦安駅周辺50年の物語

まち歩きから始まる“まちづくり活動”

まちを知り好きになるための
お話とまち歩きで綴る新浦安50年の物語

日時：5月30日（土）
13:00～16:30



場所：市民プラザWave101 サロン6
新浦安駅周辺～シンボルロード

講師：地域政策プランナー
中山 高樹 さん

定員：30名（先着順）

参加費：無料

申込み：電話・Eメールにて
《市民活動センター》
電話：047-305-1721
Eメール shiminkc@jcom.home.ne.jp ↑



■プログラム

- 13:00～14:30 講座（Wave101・サロン6）
新浦安一特に駅周辺の開発の歴史について
- 15:00～16:30 まち歩き（駅周辺・シンボルロード）
小雨決行、雨天順延⇒6月6日（土）

《まちを語る会》（まち歩き予備日）
6月6日（土）13:00～14:30 まち歩き予備日
15:00～17:00 語る会
（Wave101サロン6）

備品ロッカーの利用申込みについて

市民活動センターでは、市民活動センター登録団体を支援するため、活動に必要な備品などを一時保管しておくための備品ロッカーを貸し出しています。

申込期間：6月1日（月）～6月19日（金）

申込方法：直接、メールにてセンターまで

※メール申込の際は団体名、担当者名を記載
（抽選結果は申込みのあったメールにお知らせします）
申込多数の場合は抽選となります。

備品ロッカー

サイズ：高さ56cm×幅29cm×奥行49cm
（鍵付き）

貸出数：27 個

利用期間：令和8年7月～12月
（6ヶ月）



センター利用承認の申請について

令和7年度の市民活動センターの利用承認期間が令和8年6月30日に満了となります。引き続き施設のご利用を希望される場合は、利用承認手続きを行ってください。

提出締切：5月29日（金）

※提出書類等、詳細はセンターホームページにてご確認ください。



団体応援ミニ講座

「センターホームページ活用講座」のご案内

みなさんの活動をサポートするためにミニ講座を開催しています。年度が替わって新しく広報担当になった方に、情報発信の方法、やり方のコツをお伝えします。

実施方法：個別対応日時はお申し込み時に調整

※1回90分まで申込：電話、Eメールにてセンターまで

若者のための夏休みボランティア2026 夏に向けてスタート！

～受入団体が決まりました～

2012年から続いている「若者のための夏休みボランティア」（通称夏ボラ）は、多くの若い世代にボランティア、市民活動を体験する場。今年も下記の22団体が受け入れてくださいます。

- ・ふれあいの森公園を育む会
- ・浦安水辺の会
- ・浦安三番瀬を大切に作る会
- ・ファイバーリサイクルうらやす
- ・まるごみ浦安 U-PROJECT
- ・チーム@ エコすき
- ・NPO法人i-net
- ・おやこの広場・ほこほこ
- ・一般社団法人スマイルこども食堂浦安
- ・労働者協同組合ワーカーズコープセンター事業団
- ・認定NPO法人発達わんぱく会
- ・パルレ
- ・スペシャルオリンピックス日本・千葉
浦安市バレーボールプログラム
- ・浦安ボッチャ協会
- ・社会福祉法人千葉
- ・クローバー60
- ・オムソーリ・プロジェクト
- ・HSP/HSCリンクパートナー「Heart Smile Present」
- ・ナナメちゃん
- ・浦安市総合公園parkrun
- ・NPOスマイラー
- ・シビックテック・ウラシマ



つなぐプロジェクト

プログラム新規募集について

つなぐプロジェクトは市民活動団体と地域活動団体・学校・事業者・行政をつなぐプロジェクト。

今秋、つなぐプロジェクト冊子の改訂版作成に伴い、広く新規プログラムを募集します。活動をアピールし、地域とつながる良い機会となります。ぜひ、ご提案ください。

詳細はホームページをご覧ください

URL <https://shiminkc.wixsite.com/tsunagu-project>



センター日誌より

4、5月のセンターは、総会準備の団体で賑わっています。横断幕を印刷したり、総会資料や名簿の印刷・・・。手際よくコピー用紙の束を開けては、ページの印刷を進めています。

役員になったばかりの方は、先輩に教わりつつ一懸命に頑張っているらしいです。そして作業終了後は、ほっと一息、おしゃべりタイムとなり、決まって誰かのバッグからはお菓子が出てきて、楽しげな話し合いの場に。こんな何気ない会話から、活動のヒントやアイデアが生まれるのかもしれないね。



問い合わせ・申込みは
市民活動センターまで

発行：浦安市市民活動センター
2026年5月15日（年3回発行）

〒279-8501千葉県浦安市猫実1-1-1(市庁舎10階)

TEL: 047-305-1721 FAX: 047-305-1722

E-mail: shiminkc@jcom.home.ne.jp

URL <https://u-shimin.genki365.net>

